

## 平成 28 年度第 3 回小学校ゼミナール記録（新田班）

2016 年 12 月 23 日(金)

参加者：新田（授業者）、石橋、浦山

### 1. 協議事項

広島大学附属小学校研究大会に向けての授業検討  
小学校第 6 学年算数科「資料の調べ方」における授業づくり

### 2. 協議内容

今回の小学校ゼミナールの協議は、授業者（新田教諭）が事前に作成した学習指導案を基に行われた。附属小学校第 6 学年の児童は、単元「資料の調べ方」の基礎的な学習については既に終えており、これを踏まえ、今回の単元構成は統計的な問題解決過程（活動）に焦点を当てている。

本単元では PPDAC サイクルを採用した。PPDAC サイクルとは、Problem（問題化）、Plan（計画）、Data（データの収集・作成）、Analysis（分析）、Conclusion（結論・発展）という一連の統計的な問題解決過程（活動）を表すものである。統計教育について先進的なニュージーランドでは、既に初等教育に位置付けられていることから、本単元においても設定した。

また、本時の目標は、「問いの答えを得るために解決までの流れを見通して、資料から必要な数値を取り出し、その整理の仕方を適切に考えることができる。」であり、上記の過程の「問題化」、「計画」を意識したものとなっている。また、我が国における小学校の統計教育では、「問題化」、「計画」に関しては、焦点が当てられることが少なく、小学生の理解にも困難性があるとされている。この二点が、本時で「問題化」、「計画」を扱う理由である。

本時のめあては、「「入場者数の多さは、カープの勝利に影響したのだろうか？」この問いに対する答えの求め方を考えよう。」であり、本協議の対象はこのめあてに対するものが主であった。その内容は、この問いは適切か、この問いに対して児童がどのような数値に着目するのかの二点であった。具体的には、「入場者数」を「ぼくらの応援」に、「カープの勝利」を「カープの勝利数」に置き換えることで、児童が着目するデータの種類がどのように変化するのだろうかということを予測し、それぞれのメリット、デメリットを考察した。さらに、児童が勝利のための要素を抽出する活動を積極的に行うために、グループの中に野球に詳しい子どもを配置するなどのグループ構成や、野球に関する様々な用語を適切に理解させてデータを収集させる手立てなどは、今後更に考えていく必要があるという結論に収束した。

（文責：石橋 一昂、浦山 大貴）